株主のみなさまへ

Vol.44

株主通信 第110期

2016年1月1日～2016年12月31日

SHIMANO

表紙：スイスの自転車風景

SHIMANO

トップメッセージ

代表取締役社長

事業の経過及び成果

当連結会計年度におきましては、欧州では英国のEU離脱に伴う悲観論が台頭したものの、個人消費が引き続き好調に推移した外、輸出が復調しつつあることから緩やかな景気回復を辿りました。米国では、雇用環境の安定的な改善を背景に個人消費が堅調に推移したことにより緩やかな景気回復が続きました。

一方、国内では、個人消費の伸び悩みに加え、為替の影響なども あり景気は力強さを欠きました。

このような状況のもと、当社グループは、「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。」を使命に、健康志向や環境保全意識の高まりといった追い風の中、こころ躍る製品づくりを通じ、より豊かな自転車ライフ・フィッシングライフのご提案をしてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は322,998百万円（前年同期比14.7%減）となりました。また、利益面につきましては、営業利益は64,546百万円（前年同期比24.1%減）、経常利益は70,002百万円（前年同期比30.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は50,964百万円（前年同期比33.1%減）となりました。

自転車部品

欧州市場では、春先の悪天候の影響で店頭販売に大きくブレーキがかかり完成車在庫が高留まりしていましたが、7月以降の好天により販売が好調に推移した結果、市場在庫は適正なレベルに調整されました。

北米市場では、完成車の店頭販売は前年をやや下回りました。一方で年初から高めで推移した市場在庫は昨年より低いレベルにまで調整されました。

中国市場では、景気失速と豪雨等悪天候の影響で、昨年来のスポーツタイプ自転車の店頭販売の不振は継続し、更に前年を下回る結果に終わりました。一方で高いレベルが続いた市場在庫は落ち着きを取り戻しつつあります。

他の有力新興国市場では、これまで堅調だった東南アジアのスポーツタイプ自転車の店頭販売が前年を下回りました。南米においては景気減速や通貨安の影響を受け依然として低調な状況が続いています。

日本市場では、昨年まで好調を維持してきたスポーツタイプ自転車の店頭販売は前年を下回り市場在庫はやや高めとなっています。軽快車の店頭販売は昨年に引き続き低調に終わりました。

この結果、当セグメントの売上高は259,455百万円（前年同期比17.4%減）、営業利益は57,874百万円（前年同期比27.5%減）となりました。

釣具

日本市場では、年初からお盆にかけて、天候が比較的に安定したこともあり、市場は堅調に推移しました。熊本地震や台風が釣り場環境・消費動向に一時的に影響を及ぼしましたが、販売準備が整い一部前倒しで市場に投入した当社の2017年モデルが市場より評価され、売上は前年を上回る結果となりました。

海外市場においてアジア市場では、小売店での在庫調整が続く一方、円安基調の中で東アジア市場を中心に受注が増加したこともあり、売上は前年同期を上回る結果となりました。豪州市場での売上は前年同期比微増で終わったものの、北米・欧州市場での売上は市況の低迷の影響を受けたこともあり前年を下回る結果となりました。

この結果、当セグメントの売上高は63,143百万円（前年同期比1.7%減）、営業利益は6,842百万円（前年同期比27.4%増）となりました。

その他

当セグメントの売上高は399百万円（前年同期比2.4%増）、営業損失は170百万円(前年同期は営業損失135百万円)となりました。

期末配当のご報告

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、安定的な配当の維持・継続とともに、業績の進展に応じた成果の配分を行うことを基本方針としております。この基本方針に基づき、今回の期末配当金につきましては、前年同期と同額の1株当たり77円50銭（うち特別配当71円25銭）の配当とさせていただきました。これにより当期の年間配当額も前期と同額の1株当たり155円となりました。

なお、次期の配当につきましては、１株当たり年間配当額155円（中間配当金77円50銭、期末配当金77円50銭）を予定しております。

今後の見通し

今後の見通しにつきましては、欧州では引き続き個人消費を牽引役とする内需主導の景気回復が緩やかに続く見通しの中、英国がEU離脱交渉に入るほか、フランス、ドイツ等で大統領選挙や総選挙が予定されており、選挙結果によっては景気回復のペースが鈍化する可能性も考えられます。米国では、雇用環境の改善持続を背景に個人消費は回復傾向が続くと見込まれる一方、新政権による具体的な政策や実現性が景気動向を左右する懸念があります。

国内では、円安による企業収益の押し上げが景況感を下支えするものの、世界経済の行方次第では景気への影響は無視できないものと思われます。

このような経営環境の中、当社グループは、国内外の経済動向に注視しつつ、経営効率のさらなる向上を図り、より豊かで、新たな自転車文化、釣り文化の創造を促進してまいります。

その結果、平成29年12月期の連結業績予想は以下のとおりといたします。

	平成29年12月期	前年同期比(%)
売上高	3,300 億円	2.2
営業利益	660 億円	2.3
経常利益	660 億円	△ 5.7
親会社株主に帰属する当期純利益	465 億円	△ 8.8

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなにとぞ変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

平成29年3月

シマノのある風景：第12回 シマノ下関工場 Intelligent Plant (SSF_IP)

全世界のシマノ工場のリーディングファクトリーのひとつとして下関工場Intelligent Plant（SSF_IP）が完成しました。今回はこの新工場についてご紹介します。

IoT化を担った最新鋭工場

1970年、本社工場のある堺以外に初めて建設された下関工場。その後さまざまな形で生産の重要な役割を担ってきました。事業活動に伴う工場のグローバル化にあっても、高品質な製品づくりを手がけることでその価値を高めてきました。

現在、世界の先端の製造業で急速に進行している工場のIoT化を当社においても全世界で進める一環として、2017年1月にSSF_IPが満を持して稼働しました。

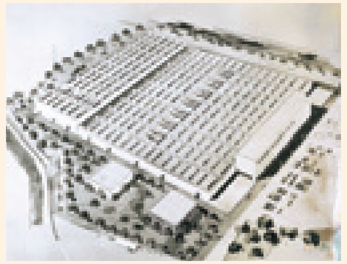
製品の付加価値をさらに大きく高めていく上で不可欠の製造力。SSF_IPはそのコアファクトリーとして、そして全世界のシマノ工場のリーディングファクトリーとして位置づけられています。

SSF_IP 基本概要

着工年月：2015年8月
稼働開始：2017年1月
建築面積：約21,000㎡
構造：鉄骨平屋（一部2階構造）／耐震

下関市への進出は1970年

下関工場は、下関市小月町の競馬場跡地に総工費約50億円を投じて、1970年に建設されました。当時の自転車部品工場としては世界最大の規模だったと言われています。また、公害問題が盛んに議論された頃で騒音、工場排水、大気汚染などの公害防止のための対策も万全に施されました。



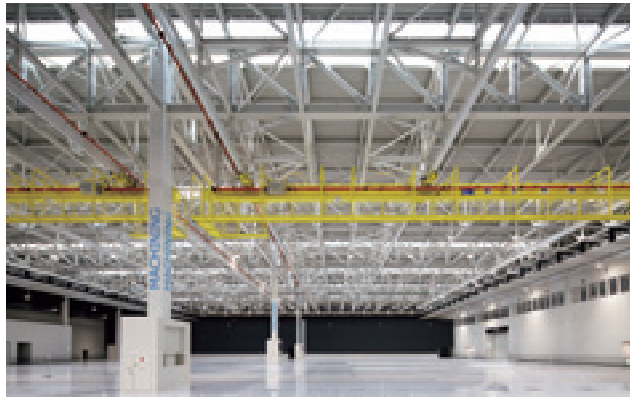
施工前の完成予想図（実際はこの1/2の面積で建設）今回のSSF_IPの建設で本来の構想を満たすものとなりました。

「島野山口株式会社」として完成した下関工場。

レイアウトの自由度を高めた大空間

SSF_IPの特徴は工程間に壁がない、レイアウトの自由度を高めた大空間です。そして工場のインフラのほとんどを地下に配置したことによって、製造フロアを見渡し良くすっきりさせるとともに、従業員の安全も確保しています。

また、本社工場と同様、FSS（Facility Support System）やSSI（Shimano Sensing Data Information System）を駆使し、工場のIoT化、見える化を進めています。各設備や工場内につけられたセンサーやカメラでさまざまな状況を感知・コントロールし、さらなる効率化を目指しています。



見渡しの良い広大なフロア。
効率の良い、最適な工程の流れを構築します。

2階にはオフィスを設置。
ガラス越しに工場内を見渡せます。

空調設備、配管などの工場インフラは地下に配置。

徹底したエネルギーの効率化

SSF_IP内部は高機密・高断熱な空間となっており、自然換気や地下100mの深さまで埋め込んだ24本のチューブから取り入れた地中熱*を利用するなど、空調の負荷低減を実現しています。照明はLED電球を100%使用し、センサーで必要な明りをコントロールしています。天井にはガラス窓を採用し、自然光によって工場内に明りを取り入れています。

＊地中熱：地中にある熱エネルギーのこと。地中の温度は地下10～200mの深さになると、大気の温度変化の影響を受けにくく、年間を通してほぼ一定（約17℃）になっています。

写真：プレイスメディア

自然環境を守るために

下関工場の周辺は瀬戸内海に面し、豊かな自然に囲まれ漁業も盛んな町です。今回の新工場建設にあたっては、地域住民の皆様方の多大なるご理解とご協力をいただきました。私たちは、今までより一層自然環境を守り、地域に貢献していく責務があると考えています。

製造過程で発生した排水は、工場内にある排水処理場で適切に処理されます。その一部は、調整池に振り分けられ、最終的には河川に流されます。調整池では稚魚を放流しており、工場排水の安全性を証明するとともに、生物の生息地（ビオトープ）としての役割も果たしています。

調整池。
大雨時の排水調整に寄与し、工場の冠水を防ぎます。

ロードコンポの最高峰、DURA-ACE R9150シリーズ

2016年の秋に発売されたDURA-ACE R9100シリーズに追加する形で、2017年にR9150シリーズの発売を開始しました。R9150シリーズはR9100シリーズにDi2（Digital Integrated Intelligence）を搭載することによって、レースに勝つためのコンポーネント機能をさらにワンステップ上げることに成功しました。
出力を最大にするため、ライダーからの入力の最適化をさらに進め、最高レベルのシステム工学によって、より高性能化されたコンポーネント同士の結びつきを強め、大きな相乗効果を得ることができました。
R9150シリーズに採用された次世代型のE-TUBE*は、スマートフォンやタブレットPCでの対応も可能、ライダーとのコミュニケーションの距離を一気に縮めることができます。

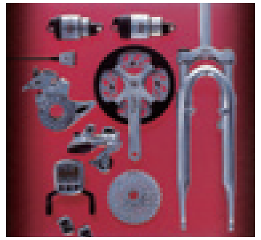
＊E-TUBE：Di2コンセプトを実現するためのシステム基盤の総称

企画者のことば

Di2は、シマノが培ってきたメカニカル技術をもとにデジタル技術を組み合わせて、ライダーが自転車を走行させるときに感じるストレスを極限まで低減させることを目的にした技術革新です。今から約8年前に、本格的なレース用コンポーネントとして、DURA-ACE 7970シリーズに採用しました。開発の最終段階のプロトタイプが本場ヨーロッパのレースに登場し、その優位性が実証されました。
最近では新たにE-TUBEという新しいインターフェース機能の改良を行うことで、従来のDi2システムでは複雑な工程が必要な細かな調節や各種のセッティングも、自転車メーカーや販売店だけでなくユーザーも簡単に行えるようになりました。
R9150シリーズでは、変速機能がさらに進化。ライダーの脚力を最大限に活かせるよう、最適なフロントとリアのギアコンビネーションを自動で選択するシンクロナイズドシフト機能によって、よりストレスのない効率的な走りが実現できます。

究極のストレスフリーへ――Di2（Digital Integrated Intelligence）

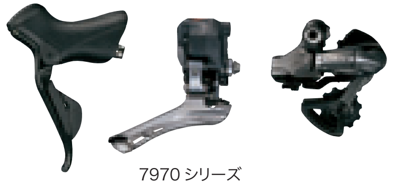
Di2は、伝統のある機械技術と、最も進んだエレクトロニクス技術とを融合させることにより、システムコンポーネントの新たな進化を追求するコンセプトです。
Di2コンセプトから生まれた最初の製品はNEXAVE C910シリーズで、快適に街や郊外を走るパーソナルバイクのためのコンポーネントシステムでした。NEXAVE C910では、走行スピードに応じギアが切り替わるオートマチック変速や、走行状況に応じて自動的に硬さが変わるサスペンションなどによって構成されていました。



NEXAVE C910シリーズ（2002年発売）

2009年、NEXAVE C910シリーズで得たデジタル技術のノウハウをベースに、本格的なロードレーシングコンポーネントへの投入に取り組み、DURA-ACE 7970シリーズが誕生します。

数週間に及ぶステージレースでは、ときに過酷な条件下で変速操作が行われ、レーサーは少なからず変速にストレスを感じています。Di2はそれを解消する、いわば究極のストレスフリーを実現する有力な手段となりました。



7970 シリーズ

高精度な機械技術を前提にしたエレクトロニクス技術の採用は、山岳のアップダウンコースなどの厳しい状況においても、その性能を発揮する完成度の高い製品となり、プロライダーたちに受け容れられました。
7970シリーズは、その後、ロードバイク用ULTEGRAシリーズやMTB用XTRシリーズなどにも展開され、幅広いライダーに使われるようになっていくとともに、2013年にはDURA-ACE 9070、そして2017年にはR9150シリーズとして進化を重ねています。

9070 シリーズ

自転車のまちづくりについて学び合う「地域交流会」の開催

近年、健康や観光、環境という観点から、まちづくりや地域の活性化に自転車を活用しようという動きが出てきています。そのような中、シマノが運営する「Life Creation Space OVE」では、日本各地で自転車のまちづくりに取り組む自治体・企業などの方々が、それぞれの活動内容や成果、課題などを共有し、共に考え学び合う「地域交流会」を主催しています。
「OVE」で実施している「散走」という自転車の愉しみ方に共感し、自転車のまちづくりに活かそうと考えている方々が集い、交流を生む機会をご提供することで、新しい自転車文化の推進に貢献してまいります。

「地域交流会」についての詳細はこちらを参照ください。
http://cyclingood.shimano.co.jp/social/report06_1.html

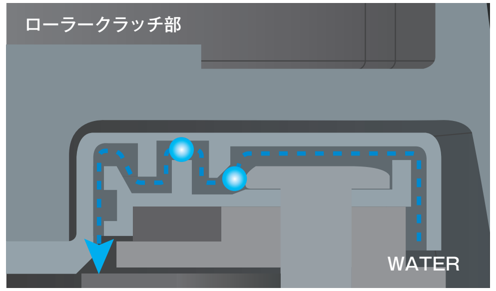
耐久性の基準を変えてしまう タフステージでこそ活躍する「ツインパワー XD」を発表

過剰なほどの耐久性（XD＝extreme durability）をキーワードにチューンされた、新たなツインパワーが誕生しました。
ショアジギング、磯やウェーディングでのシーバスゲームなどの、ハードなシーンにおいて信頼に足る耐久性を提供するのが命題です。
そのひとつは「ギア強度のアップ」。シマノならではの高精度加工技術により、旧モデルのワンサイズ大型機種と並ぶ強度を確保。さらに、ラビリンス構造により強化された防水構造「Xプロテクト」により防水性アップを実現しました。
カーボンクロスワッシャ採用により、ドラグの耐久性も大幅アップ。これまでの常識を覆すほどタフさを備えた一台に仕上がっています。

TWIN POWER XD C5000XG

X PROTECT

防水性の高い
ラビリンス構造の
「Xプロテクト」



難攻不落の防水構造

撥水処理＆ラビリンス構造による高い防水性能 ── Xプロテクト

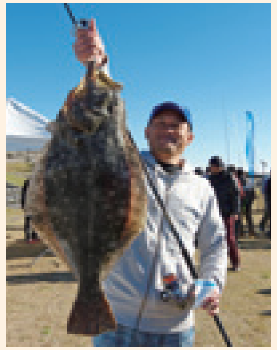
ツインパワーXDなど、中小型のスピニングリールに採用される「Xプロテクト」では、より軽い回転性能が求められるため、専用に新たな防水構造を開発。回転軽さを損なうことのない非接触式にこだわり、従来の撥水処理に加え、水の浸入を抑えるラビリンス構造を複合することで、非接触でありながら、高い防水性能を実現しました。その回転軽さゆえ、ラインローラーへの採用も可能となり、ボディ部に加え、ラインローラーベアリングの塩ガミ耐久性も大幅に向上しています。

インストラクターのことば

耐久性や防水性がより高くなったから、投げる回数が多くてハードな状況での釣りに適していますし、よりアグレッシブに釣りができるようになりますね。特に、大きな魚が掛かる可能性が高い釣りだと、やはり耐久性が一番重要です。ツインパワーXDは強靭でありながら、回転がとても滑らかなのはさすがです。さまざまなシチュエーションで使いましたが、全くストレスの無いリールに仕上がっています。

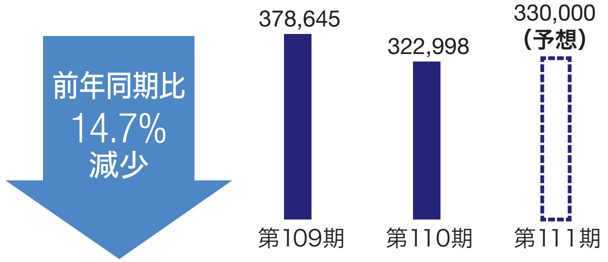
「シマノ 熱砂ライブ」の開催

2016年12月「シマノ 熱砂ライブ 遠州パーティー」と銘打った、砂浜からのルアーを用いたヒラメ釣り大会を開催しました。
高級魚として知られているヒラメ。沖の深場に潜み、海底で目だけを出して獲物を待ち伏せるイメージが強いのですが、小魚を捕食するために岸に近い浅瀬にも回遊します。この魚を砂浜からルアーで狙うサーフゲームが近年、爆発的な人気を博しています。
本イベントは、釣れたヒラメ1匹の寸法で順位を決める形式でしたが、他にもインストラクターが釣り場に出向いて、参加者とコミュニケーションを図ったり、フラッグシップモデルのロッド・リールの試投会、豪華景品の当たるお楽しみ抽選会など、参加者とのふれあいを第一に、和気あいあいとした大会となりました。
おかげさまで、参加者の皆様から、翌年の開催を望む声が多く聞かれました。今後もお客様を大切にし、よりご満足いただくことで、ブランドイメージの向上に努めてまいります。

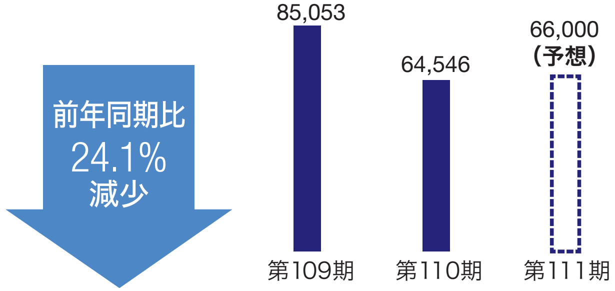


第110期連結決算ハイライト

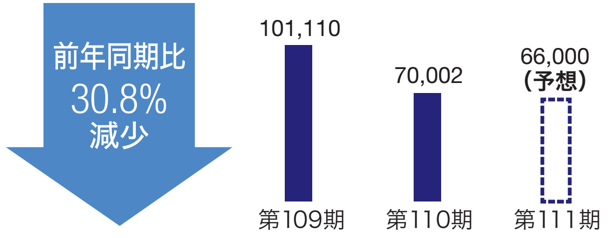
連結売上高（単位：百万円）



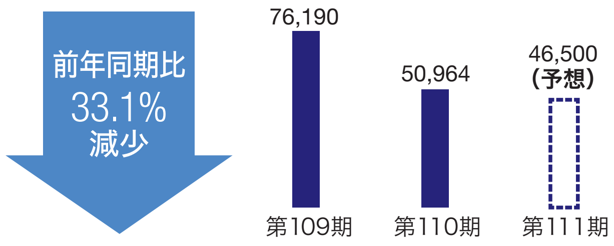
連結営業利益（単位：百万円）



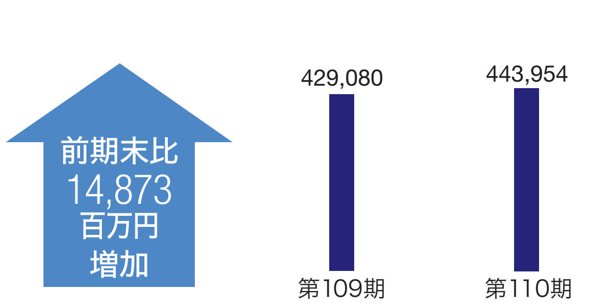
連結経常利益（単位：百万円）



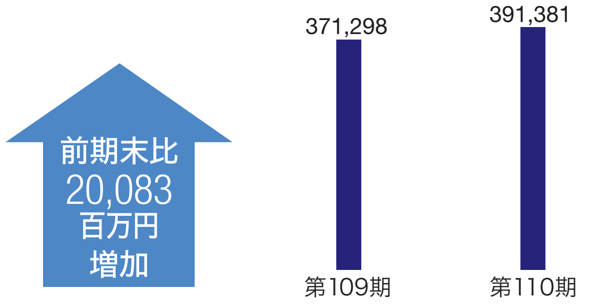
親会社株主に帰属する当期純利益（単位：百万円）



連結総資産（単位：百万円）



連結純資産（単位：百万円）



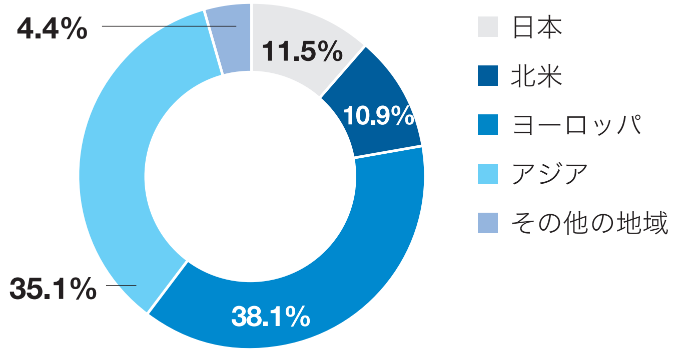
■ 地域別売上高の状況（単位：百万円）

	第109期	第110期
日本	34,889	**37,004**
北米	41,519	**35,215**
ヨーロッパ	144,664	**123,009**
アジア	139,416	**113,517**
その他の地域	18,155	**14,251**

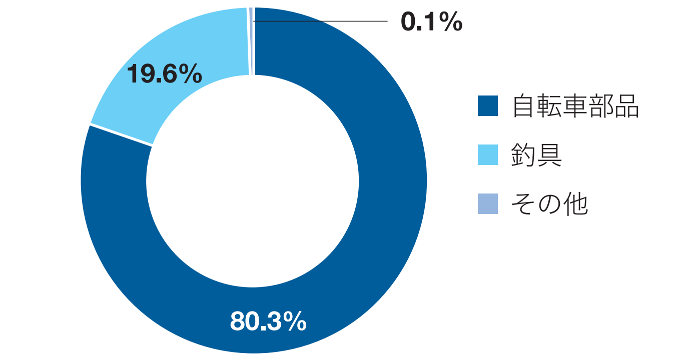
■ セグメント別売上高と営業損益の状況

第110期	売上高（単位：百万円）	増減率（前年同期比）	営業損益（単位：百万円）	増減率（前年同期比）
自転車部品	**259,455**	△17.4%	**57,874**	△27.5%
釣具	**63,143**	△ 1.7%	**6,842**	27.4%
その他	**399**	2.4%	**△ 170**	—%

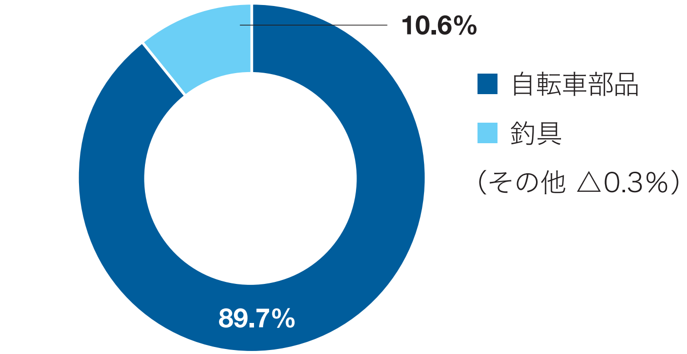
地域別売上高比率（第110期）



セグメント別売上高比率（第110期）



セグメント別営業利益比率（第110期）

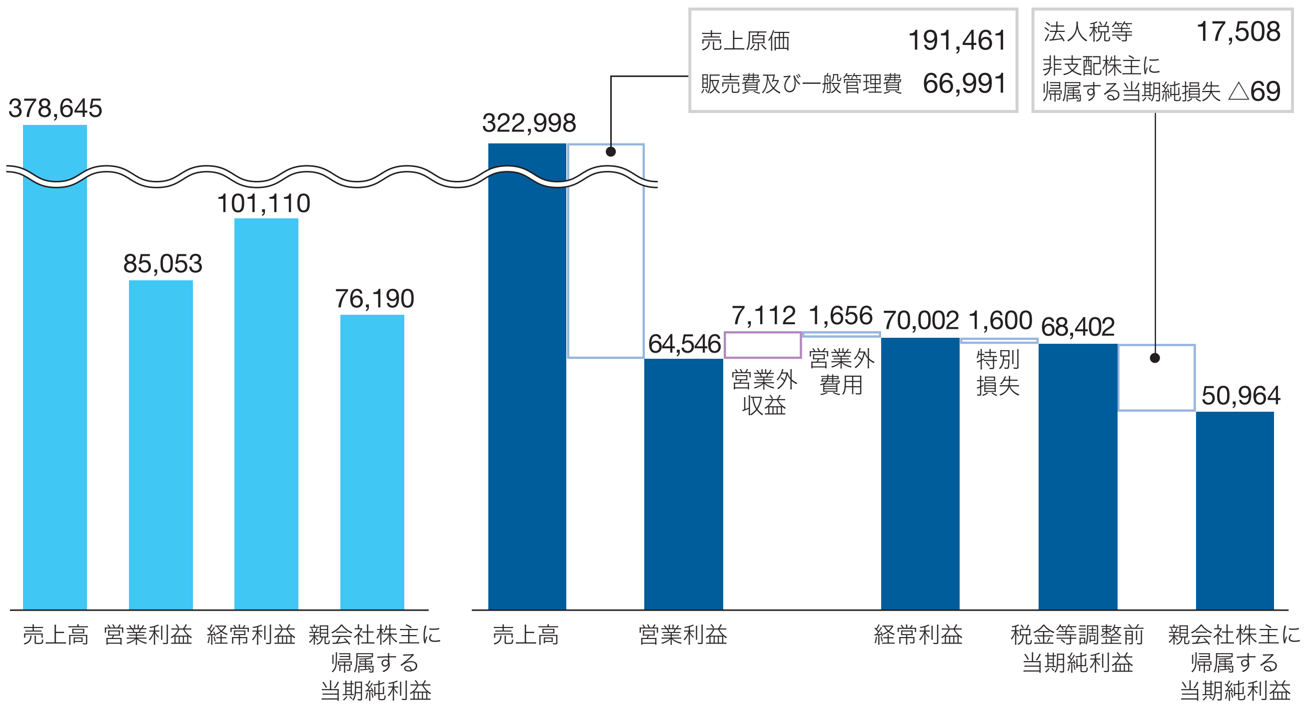


連結財務諸表

■ 連結損益計算書（要約）

第109期 平成27年1月1日〜平成27年12月31日	第110期 平成28年1月1日〜平成28年12月31日

（単位：百万円）



第111期予想（連結）

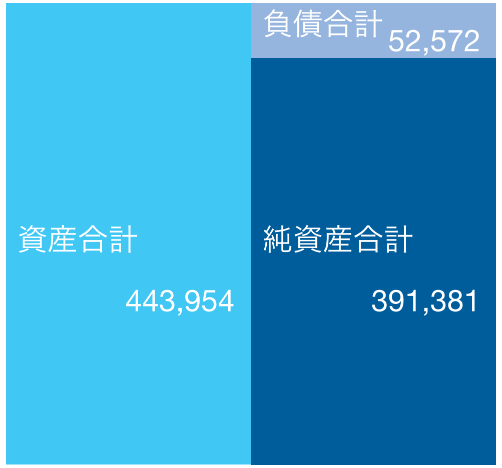
	業績予想		
売上高	3,300 億円	前年同期比	2.2%増
経常利益	660 億円	前年同期比	5.7%減
親会社株主に帰属する当期純利益	465 億円	前年同期比	8.8%減

	セグメント別売上高予想		
自転車部品	2,640 億円	前年同期比	1.8%増
釣具	655 億円	前年同期比	3.7%増
その他	5 億円	前年同期比	25.1%増

■ 連結貸借対照表（要約）

第110期末　平成28年12月31日現在

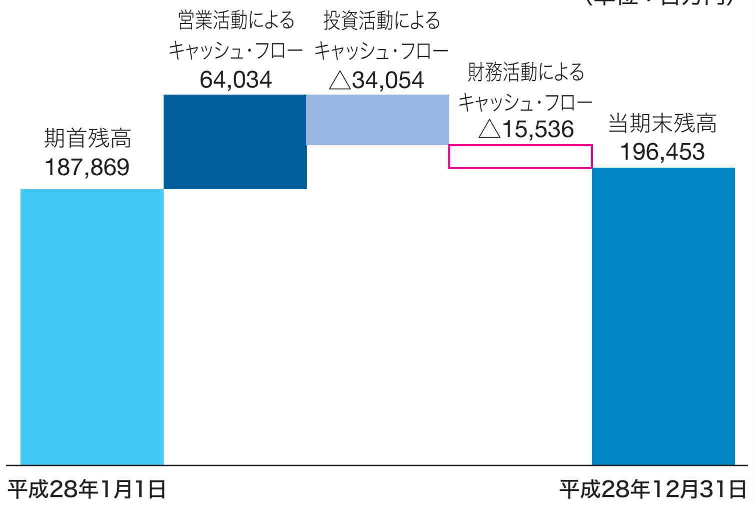
（単位：百万円）



■ 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

第110期　平成28年1月1日〜平成28年12月31日

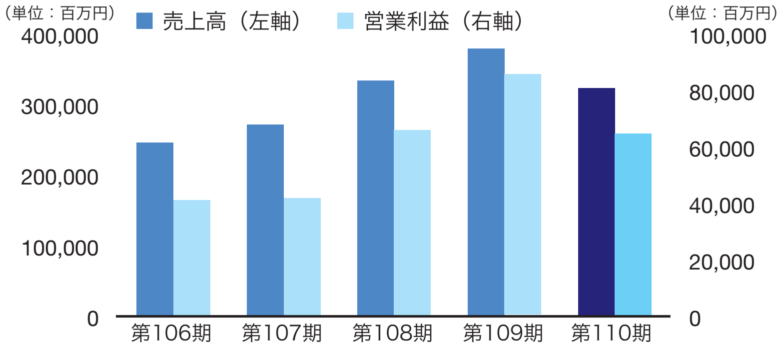
（単位：百万円）



（注）現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しております。
それにより生じるグラフの誤差については調整しております。

売上高と営業利益の推移

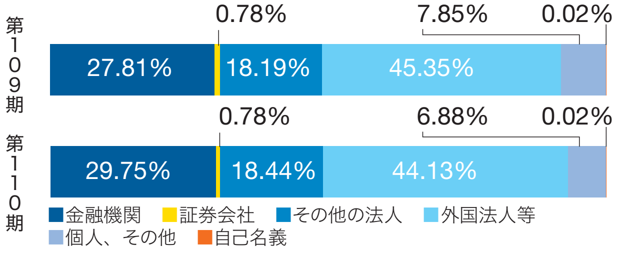
第110期の売上高・営業利益は、自転車部品事業では主要市場である欧州市場、北米市場の販売にブレーキがかかったことと中国市場の不振により減収減益、一方、釣具事業では全体の売上は前期を下回ったものの国内市場の販売が好調であったことを要因に増益を確保しました。



株式情報 平成28年12月31日現在

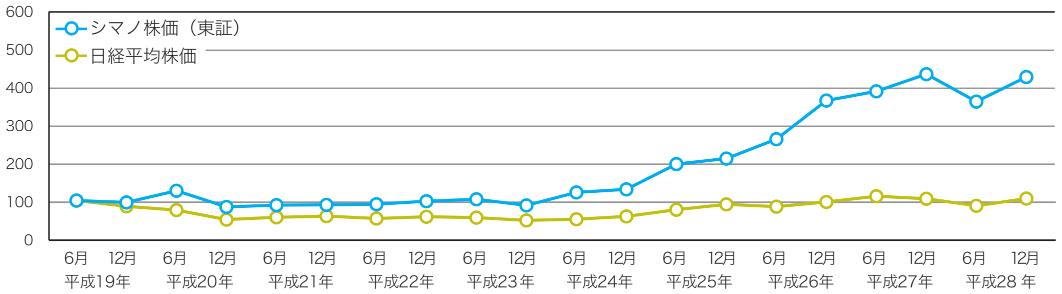
- 発行可能株式総数　262,400,000株
- 発行済株式の総数　92,720,000株
- 株主数　6,702名
- 単元株式数　100株

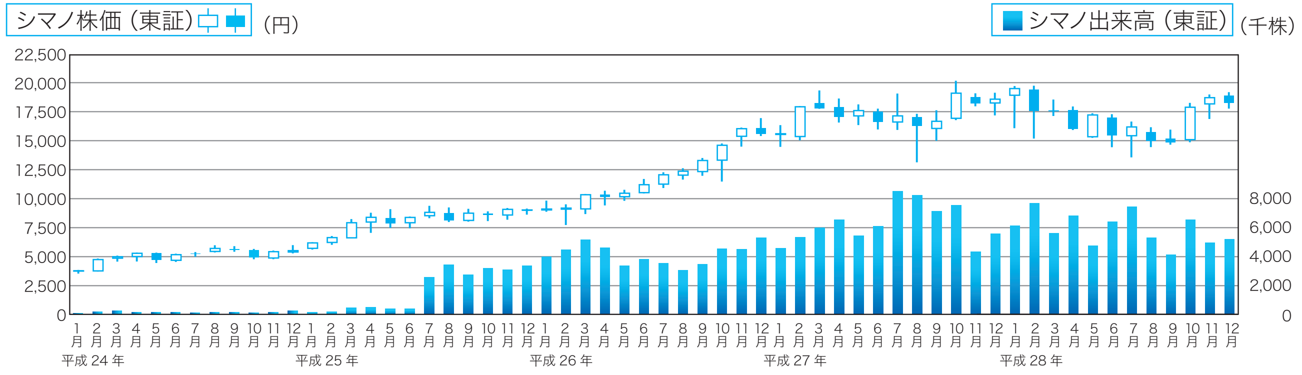
構成比率



株価チャート

平成19 年6 月（終値）を100 とする変化率





※平成25年7月16日に大阪証券取引所が東京証券取引所と合併したことに伴い、同年7月以降の売買高が増加しています。

大株主（上位10名）

株　主　名	持株数（千株）	持株比率（%）
湊興産株式会社	7,640	8.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	4,337	4.68
太陽工業株式会社	4,040	4.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3,634	3.92
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	3,105	3.35
株式会社スリーエス	2,171	2.34
日本生命保険相互会社	2,098	2.26
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,066	2.23
CBNY-CHARLES SCHWAB FBO CUSTOMER	1,720	1.86
株式会社りそな銀行	1,711	1.85

（注）持株比率は自己株式（16,902株）を控除して計算しております。

会社概要 平成28年12月31日現在

社　　名	株式会社シマノ
英文社名	SHIMANO INC.
創業年月	大正10年（1921年）2月
設立年月	昭和15年（1940年）1月
資本金	35,613百万円
従業員数	1,258名
事業内容	自転車部品、釣具、冷間鍛造品およびロウイング関連用品等の製造販売
本　　社	〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町 3丁77番地
URL	http://www.shimano.com

役　員

代表取締役社長	島野容三	取締役	樽谷　潔
代表取締役 専務取締役	角谷景司	取締役	人見康弘
		取締役	チア チン セン
専務取締役	和田伸司	取締役	松井　浩
常務取締役	湯浅　哲	取締役	大津智弘
常務取締役	平田義弘	社外取締役	一條和生
常務取締役	島野泰三	常勤監査役	島津孝一
常務取締役	津崎祥博	常勤監査役	勝岡秀夫
常務取締役	豊嶋　敬	社外監査役	松本五平
		社外監査役	野末佳奈子

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月
基準日	期末配当金　毎年12月31日 中間配当金　毎年 6月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 当社のホームページに掲載いたします。 （http://www.shimano.com） ただし、やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-782-031
ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
証券コード	7309